

2026 年度第 1 回がん登録標準化専門委員会 議事要旨

日時：2026 年 6 月 22 日（月）14：30～16：30

場所：Web 会議（Teams）

委員：伊藤秀美、梅沢淳、柴田亜希子、田中里奈、寺本典弘、中田佳世、中林愛恵、藤阪保仁、堀芽久美、松田智大、宮代勲、山下夏美

国立成育医療研究センター：加藤美穂、松本公一

オブザーバー：伊藤桂、江森佳子、小野綾美、佐藤敦、高橋ユカ

欠 席：西田一典

（敬称略）

I. 挨拶・情報提供

がん登録センター長 松田より、開催の挨拶と新規委員等の紹介があった。

II. 検討事項

1. R9～R11 導入検討事項

【協議事項】

- 資料に示したスケジュール予定で進める。

2. 多重がんルール SEER2026 年版

【協議事項】

- SEER2026 年版と SEER2025 年版は、大きな変更点がなく、同義語と定義の表が 3 列から 2 列に変更され、判定を行うがん登録実務者にとって扱いやすく、また ICD-0-4 との親和性が高いため、2027 年診断症例から SEER2026 年版を採用・導入を開始する。

3. UICC TNM9 版

院内がん登録における UICC TNM9 版

【協議事項】

- UICC TNM 分類 9 版の総則や病期分類の変更がある部位等について、継続研修等での説明を検討する。
- 網膜芽細胞腫の H 分類の導入については継続検討。

全国がん登録における UICC TNM9 版

【協議事項】

- 病期に関しては、がん情報として固定する方法を検討。
- カラムやマスターの持たせ方については、整理の上、引き続き検討する。

4. トロント小児がん病期分類

【協議事項】

- 政策提言に生かすこと目指し、傾向を理解するために使えるデータか、そのエフォートを割くのに見合うのか、がん登録実務者の育成も含め、実現可能性について引き続き検討する。
- トロント分類を適用するがん種と年齢の組み合わせを検討し、がん種によって適用するかも検討。
- システムの構築上、TNM 分類とトロント小児がん病期分類の表記方法を含め、具体的な仕様について取りまとめ、次回以降に示し協議する。

5. 医療機関別全国がん登録情報の利用・提供について

【協議事項】

- 名称「医療機関別全国がん登録情報」について再検討。
- 国と都道府県が利用できるよう、NCC の全国がん登録システムに出力機能を付与する方向で検討。
- 集計結果を集約化・均てん化の資料として提出するところから始め、都道府県でどう使えるか議論を詰めたい。

6. 登録・届出項目の追加

【協議事項】

- 生検や細胞診等の検体を用いて遺伝子診断が行われるため、診断根拠としては遺伝子診断をした場合、現状のルールでは組織診を登録する。そうすると ICD-O-4 の新たなコードの精度を担保するためには役に立たない。遺伝子診断はあるといいが、これまでのコードを差し替えると、後で解析するときに混乱する可能性があるため、現状あるコードを使うのではなく、別のコードとするのがいいのではないかな。
- 遺伝子診断をした場合、現状のルールでは診断根拠は組織診を登録するため、ICD-O-4 コードの精度を担保するために役立つか検証が必要。
- 日本において、遺伝子診断は再発や治療が特別な場合、他に治療の手立てがない場合に実施する建付。現状がん登録では初回治療のみを登録するため、有用性について検証が必要。
- European Network of Cancer Registries (ENCR) にあわせる方向で、実際に適用した際の問題について取りまとめた上で、再度案を提示する。

7. 標準登録様式と全国がん登録届出マニュアルの改訂について

【協議事項】

- 「何年版」をなくすとどれを用いたかがわからなくなる恐れがある。
- マニュアルの更新時期とタイトル（年版等）について、継続検討する。

8. 話題提供、意見交換

ICD-0-4

- 作業資源に依存するところが大きい。データベースの仕様が近々変更となることが予想される。データ基盤は数十年先を見据え、収集方法も変わってくることを踏まえるが、現状維持で乗り切る旨説明し納得いただきたい。

以上、閉会